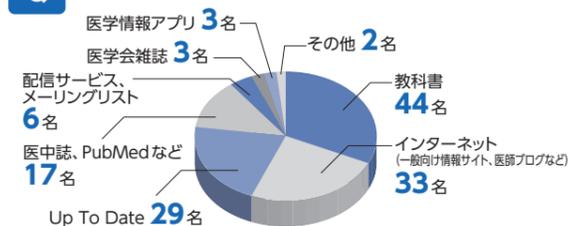


若手医師アンケート みんなのLife & Work Style

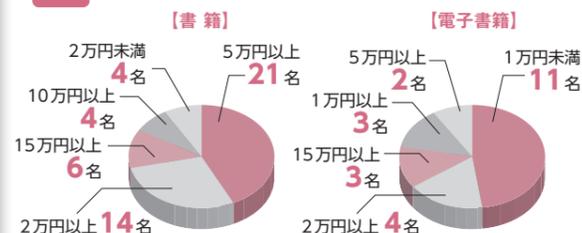
若手医師を対象にしたアンケート調査の後編は、「情報収集」について。同じ職場の同期や先輩がどんな媒体を活用しているのかは分かるけれど、他院となると「結構ナゾ」という方も多はず。今回のレポートで実態が明らかか？！

アンケート実施 (男42名・女22名 計64名)

Q 医学情報は主に何から得ますか?(複数回答可)



Q この1年間で教科書に費やした額は?



書籍に加えてインターネットを利用している人が多いものの、電子書籍を購入する額は少ない様子。まずはインターネットで新しい情報や大まかな内容を確認し、書籍で詳しく調べていることが伺えます。よく利用する医学情報アプリやサイトはばらつきがあるものの、「Up to date」「M3」「M2PLUS」が若干多い傾向。しかしコンテンツの特色や使い勝手などがあるため、用途・好みに合わせて使い分けのベターでしょう。余談ですが、日本経済新聞の調査(2009年実施)では、年収400万円以下の人の月額書籍購入費平均は1,914円、400万円~800万円の方は2,557円、800万円以上の方は2,910円と、読書量が年収に正比例する結果に。医療の質も読書量と比例しているかもしれませんね。

Q 携帯にダウンロードしている医学情報アプリは?



Q よく見る医学情報サイトや配信サービスは?



2020年

実践講座 全国版

臨床研修 屋根瓦塾

in KYOTO

10月25日 午前9時~12時 予定

京都府医師会館 3階大会議室 (JR二条駅下車 徒歩すぐ)

参加されます 臨床研修医が 全国から

プログラム シミュレーションゲーム 臨床研修 患者をどう診る?

若手医師が作成した複数の症例シナリオに、全国の臨床研修医とチームを組んでチャレンジ!

一般社団法人 京都府医師会
〒604-8585 京都市中京区西ノ京東梅尾町6
TEL.075-354-6104 FAX.075-354-6074
http://www.kyoto.med.or.jp/

京都府医師会では本紙を定期的に発行しており、次号10月に発行予定です。掲載内容向上のために、本誌に関するご意見・ご要望をお寄せください! また、研修医・編集委員を募集しています。編集に携わってみたい先生がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。



「Arzt」:ドイツ語で「医者」を意味する言葉から本誌のタイトルを取りました。

研修医・若手医師のための情報誌「アルツト」

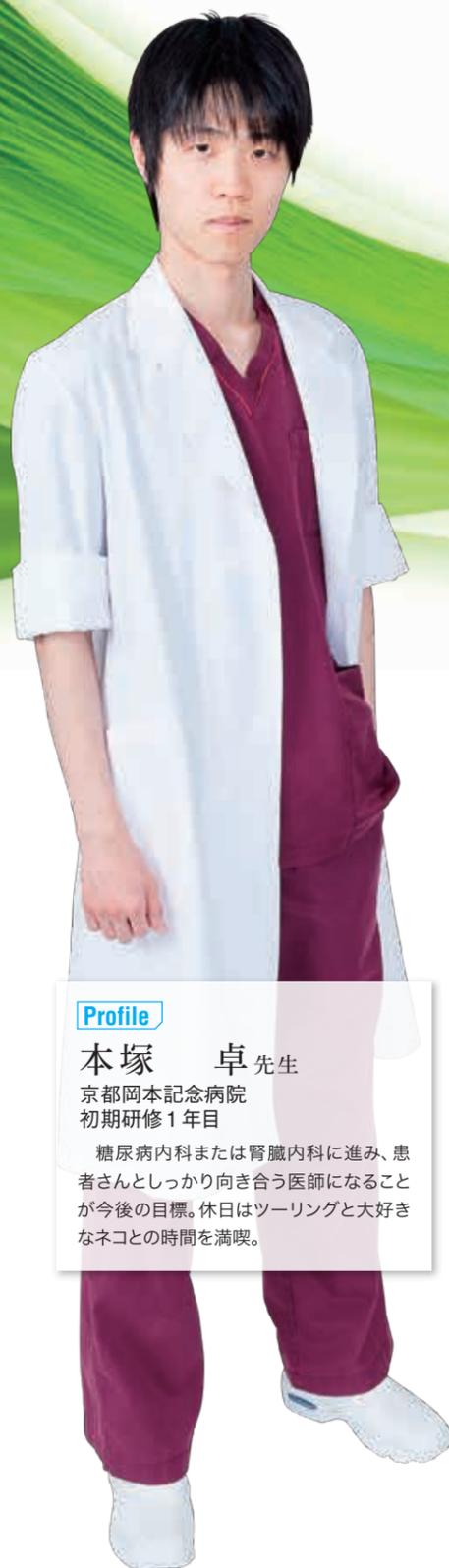
Arzt Vol.10



研修医REAL INTERVIEW 研修医1年目を終えて 見えてきたものとは?



研修医・若手医師のための情報誌「アルツト」
Arzt Vol.10
2020年4月1日発行
■ 発行人 一般社団法人 京都府医師会
■ 制作 アルツト編集部
一般社団法人 京都府医師会



研修医1年目を終えて 見えてきたものとは？

今回お話を伺ったのは、京都岡本記念病院に勤務する原先生と本塚先生。初期研修1年目を終えた今だからこそ分かる課題や臨床医として大切なこと、そして京都府医師会が2020年2月に開催した「研修医ワークショップ」の感想を振り返ってもらいました。

先輩医師のサポートに頼り過ぎず 自分で考える姿勢が大切

本塚先生（以下：敬称略）：当院に入職した大きな決め手となったのは、総合診療科の先生が毎週研修会を開いてくださることでした。学生の時に見学させてもらった際、とても興味深い話をされていて、多くのことを吸収できるといったんです。

原先生（以下：敬称略）：私は当院の近くで育ち、「地域の医療に貢献したい」という想いがありました。そして当院を見学させていただいた時、現場で活躍されている先生方がやりがいを持ってイキイキと働かれている姿を見て、「ここで働きたい」と感じました。

本塚：研修医として約1年間勤務して、働く環境・学ぶ環境は期待通りだったのですが、夜間当直は体面でも技術面でも想像していたより大変でした。今は慣れてきて、技術的な面に関しても入職当時に比べると迅速に動けるようになってきました。

原：最初の頃は緊張もあり、夜間当直が終わるとグッタリという感じでした。働きだしたら、いかに早く生活のペースをつくるかが大事ですね。当院は先輩医師の方々が研修医のことを気にかけてくださり、親身になって指導・サポートしてくださるので本当にありがたいです。仕事が終わってから一緒に食事をすることもあり、こうしたアットホームな雰囲気が、仕事の時に質問や相談をしやすい関係につながっていると思います。

本塚：先輩との距離が近いのは心強いですね。ただ、大学で学んでいた時は学生と先生と立場が異なりましたが、今はキャリアこそ違え同じ医師なので、



指導医をはじめとする先生方に頼り過ぎないよう気をつけています。例えば、指導していただいたことをどう応用させるかは、できる限り自分で考えるようにしています。

原：知識・技術の習得に加え、患者さんとの関わりも大事だということをこの1年で実感しました。医療を学んだ者にとっては当たり前のことでも、患者さんにとってはそうではないことが大半。説明をする際に専門用語ばかり使うと、きちんと伝わらないだけでなく不安感をあおってしまいます。そうならないよう、分かりやすく話すことを心がけています。

本塚：あと、学生時代の勉強では患者さんの病歴や主訴がはっきりしていますが、実際の現場ではそうでないケースが多くあります。こうした場合に、いかに患者さんから有効な情報を集めるかは、研修医にとって大きな課題です。コミュニケーション能力はすぐには身につかないので、毎日の患者さんとの関わりを通じて高めていくよう努めています。

『研修医ワークショップ』で 救急診療のポイントを確認

原：私たちは2月に開かれた京都府医師会主催の『研修医ワークショップ』に参加しましたが、本塚さんの感想は？

本塚：まず、救急がメインテーマになっていることに関心を持ちました。半日まとめて救急の指導を受けられる機会はあまりないので参加しました。基礎的な手技や考え方を再確認したことで、これまで学んできた知識を整理できました。シミュレーターを使って細かな注意点を確認できたのも良かった点です。



原：シミュレーションを行う前に、患者さんの状況が具体的に設定されていたので、現場で活かせるように感じました。若手の先生が講師を務めておられて、研修医が知りたいことを教えていただけることも、このワークショップの特長だと思います。また私は高知大学で学んでいたため、京都で知り合いの同期が少なく、講習の後の親睦会で他院の研修医の方々と知り合えたことも収穫でした。

本塚：確かに、他院でどんな取り組みをしているのか知ることができて刺激になりますね。こうしたイベントに参加すれば得られるものがあるので、研修医の方々には積極的に参加することをおすすめします。そして、さまざまな研修やイベントで吸収した知識や大学で学んだ基礎を土台にして、2年間の初期研修期間で実践力を伸ばすことが大事だと思います。

原：先ほど話題に出ましたが、日々の診療で求められるコミュニケーション能力はすぐに身につかないので、普段から意識して患者さんや職員の方々と関わることが大事です。私たちもこうしたことを心がけながら、成長できるように頑張っています。



Profile

本塚 卓 先生
京都岡本記念病院
初期研修1年目

糖尿病内科または腎臓内科に進み、患者さんとしっかり向き合う医師になることが今後の目標。休日はツーリングと大好きなネコとの時間を満喫。

Profile

原 絵梨香 先生
京都岡本記念病院
初期研修1年目

患者さん、スタッフに気を配りながら業務にあたる先輩の麻酔科医に感銘を受け、同じ麻酔科医を目指す。オフは友人とのショッピングでリフレッシュ。